参考資料1

令和６年12月議会

生活環境委員会　参考資料

○ 福岡市道路整備アクションプラン 2028 （原案）

令和６年12月

道 路 下 水 道 局

「福岡市道路整備アクションプラン2028（原案）」

道路整備の基本的な考え方（案）と主要施策（案）について皆様の意見を募集します

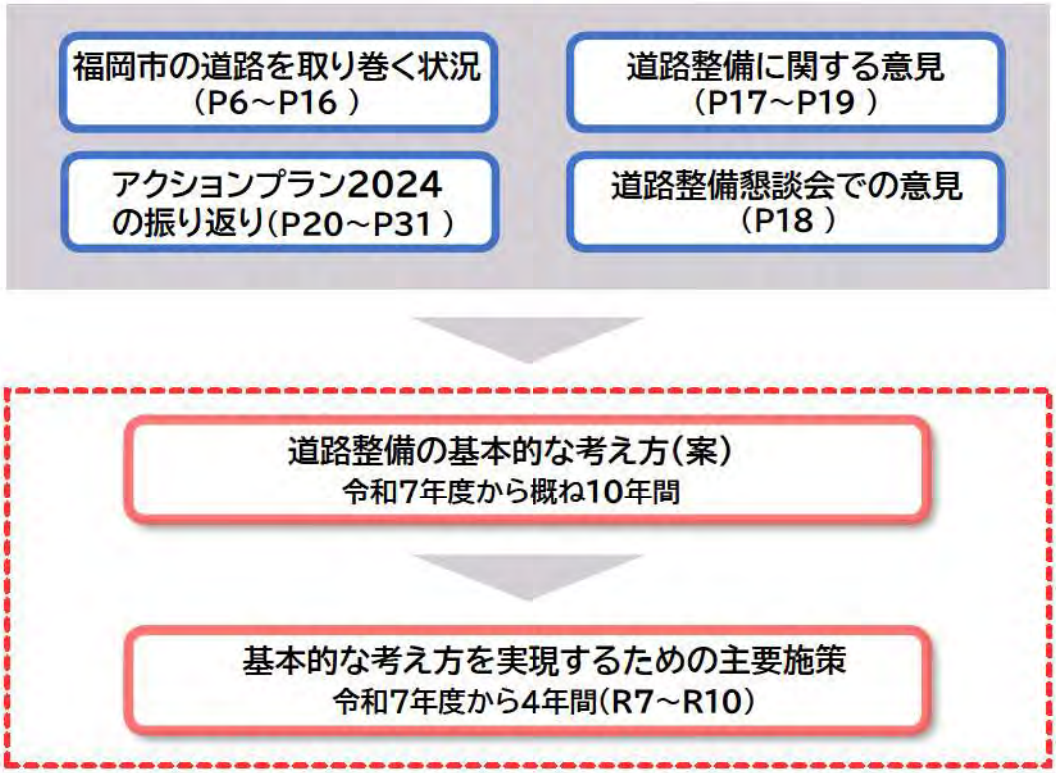
道路は、市民生活や都市活動を支える最も基本的な社会資本であり、福岡市では、これまで、概ね４～５年毎に道路整備の計画を策定し整備を進めてきました。

この度、現計画である「福岡市道路整備アクションプラン2024（Ｒ３～Ｒ６）」が、令和６年度に計画期間の満了を迎えることから、令和７年度以降も計画的に道路整備を実施していくため、新しい道路整備計画の策定を進めています。

策定にあたり、福岡市の道路を取り巻く状況の変化や現計画の振り返り、市民意見や有識者懇談会による意見等を踏まえ、令和７年度から概ね10年間の道路整備の基本的な考え方、及び令和７年度から４年間（R7～R10）で取り組む主要施策を整理し「道路整備アクションプラン2028（原案）」としてとりまとめました。

つきましては、道路整備の基本的な考え方（案）と主要施策（案）について、市民の皆様のご意見を募集いたします。

■構 成



破線で囲まれた部分について、皆様の意見を募集します。

● ご意見募集の詳細

1. 意見募集期間

令和７年２月から令和７年３月頃（１か月程度）

2. 配布資料

（１）福岡市道路整備アクションプラン２０２８（原案）
（２）意見提出用紙

3. 資料の閲覧･配布場所

（１）各区情報コーナー、入部出張所、西部出張所
（２）情報プラザ（市役所１階）　（３）情報公開室（市役所２階）
（４）道路計画課（市役所６階）　（５）福岡市ホームページ

4. 意見の提出方法

様式は自由ですが、必ず住所と氏名を明記のうえ
●郵送　●ファクシミリ　●電子メール
のいずれかにより、下記「５．意見提出先」まで提出して下さい。
（電話での意見提出や住所・氏名の記載がないものは受け付けできません）

5. 意見提出先

〒810-8620（住所不要）　福岡市道路下水道局計画部道路計画課
ＦＡＸ：092-733-5533　電子メール：dorokeikaku.RSB@city.fukuoka.lg.jp

6. その他

（１）提出された方の住所、氏名は厳正に管理し、公表したり、他の目的に利用・提供することはありません。
（２）意見への対応は原案の確定時に公表する予定ですが、意見への個別回答は行いませんので、予めご了承ください。

7. 問い合わせ先

福岡市道路下水道局計画部道路計画課（092-711-4462）

福岡市道路整備
アクションプラン2028
（原案）

目 次

1．計画の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
2．福岡市の道路を取り巻く状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・6
3．道路整備に関する意見 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
4．「福岡市道路整備アクションプラン2024」について ・・・20
5．成果指標の達成状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
6．これまでの４年間における主な取り組み ・・・・・・・・・22
7．これまでの４年間における成果と課題 ・・・・・・・・・・30
8．今後の道路整備の基本的な考え方 ・・・・・・・・・・・・32
9．主要施策（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
柱１：安全・安心でみんなにやさしい道づくり ・・・・・・33
柱２：都市の魅力・活力を生み出す道づくり ・・・・・・・36
柱３：災害に強い道づくり ・・・・・・・・・・・・40
柱４：環境にやさしい道づくり ・・・・・・・・・・・44

SDGs達成のための取り組み

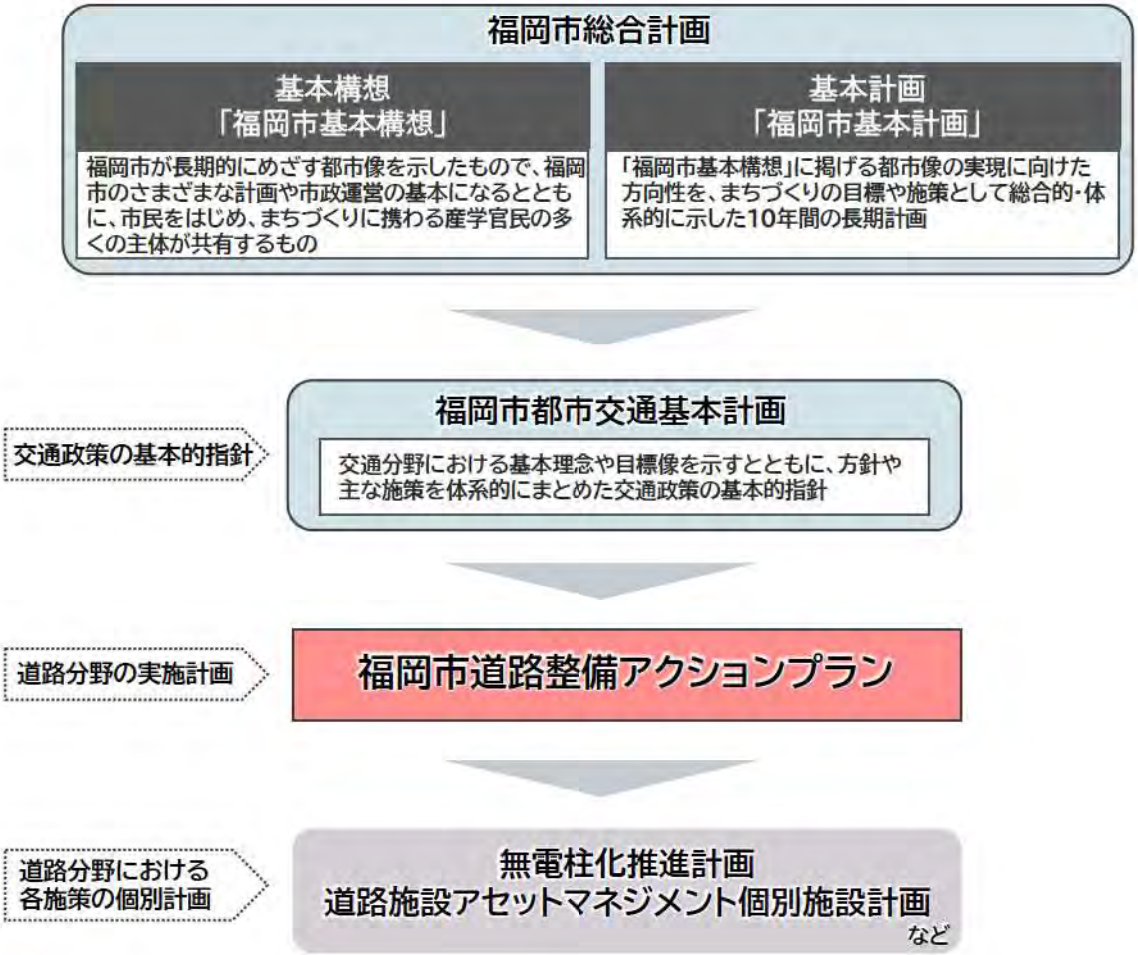
SDGs(Sustainable Development Goals)とは、「誰一人取り残さない」持続可能な社会を実現するために、2015年の国連サミットで採択された、2030年を期限とする17の国際目標です。

福岡市では、総合計画に基づく各施策の着実な推進により、SDGsの達成に取り組んでいます。道路下水道局においても、市民生活や都市活動を支えていくため、「福岡市道路整備アクションプラン2028」に基づく事業を推進する中で、SDGsの達成に資する事業にも取り組んでいきます。

1. 計画の概要

■ 位置付け

福岡市道路整備アクションプランは、本市の将来の健全な発展を促進するために策定する市政の総合計画（基本構想・基本計画）などに基づいて、道路分野における実施計画として、道路整備の基本的な考え方や主要施策・成果指標を示すものです。



■ 計画期間

基本構想で示した都市像の達成に向け、基本計画や実施計画を踏まえ、道路整備の進捗状況や道路を取り巻く状況、道路整備に関する意見などを勘案し、令和7年度から概ね10年間の「道路整備の基本的な考え方」及び令和7年度から4年間（令和7年度～令和10年度）の「主要施策と成果指標」を示すものです。

2. 福岡市の道路を取り巻く状況

人口、面積

■ 人口構造、面積

全国的に人口減少社会を迎える中、福岡市の人口は一貫して増加を続けており、令和6年で約165万人となっています。将来人口推計の予測では、今後も増加を続けるものの、令和22年頃に約170万人に達し、ピークを迎えると見込まれています。

総人口に占める高齢者（65歳以上）の割合が21%を超えて超高齢社会に突入しており、今後も高齢化率が上昇し続ける見込みとなっています。

また、総人口に占める障がい者の割合も増加傾向となっています。

【人口の推移、年齢別人口構成】

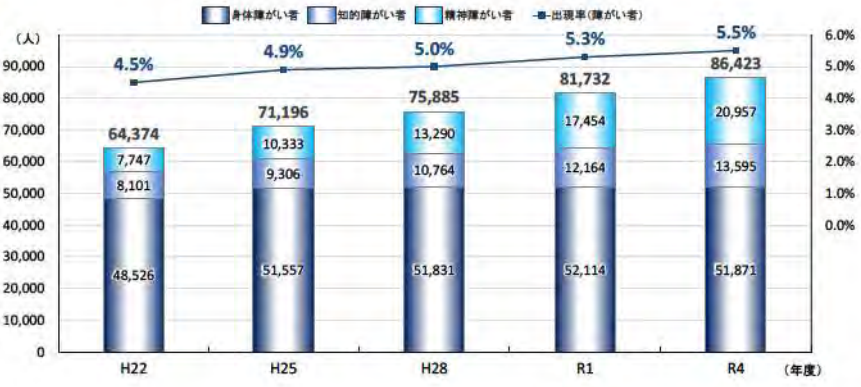
資料：国勢調査
資料：福岡市の将来人口推計

【福岡市の面積と人口】

	面積	人口
東区	69.46km²	336,541人
博多区	31.62km²	262,099人
中央区	15.39km²	214,459人
南区	30.98km²	271,394人
城南区	15.99km²	134,082人
早良区	95.87km²	224,615人
西区	84.16km²	213,031人
計	343.47km²	1,656,221人

R6.9.1現在
資料：福岡市推計人口

【障がい児・者数及び総人口に占める割合の推移】



資料：「第7期福岡市障がい福祉計画」
資料：「第3期福岡市障がい児福祉計画」

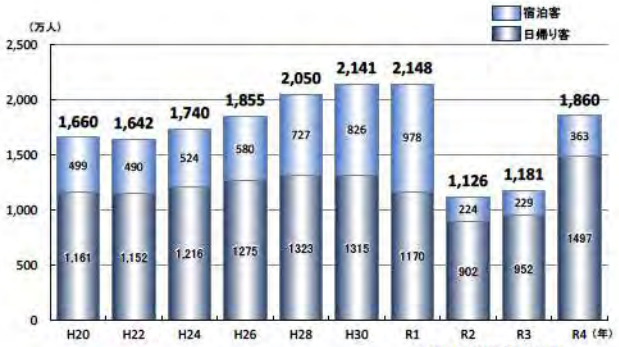
人流

■ 入込観光客、外国人入国者

福岡市を訪れる観光客や外国人入国者は増加していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年以降大きく減少しました。

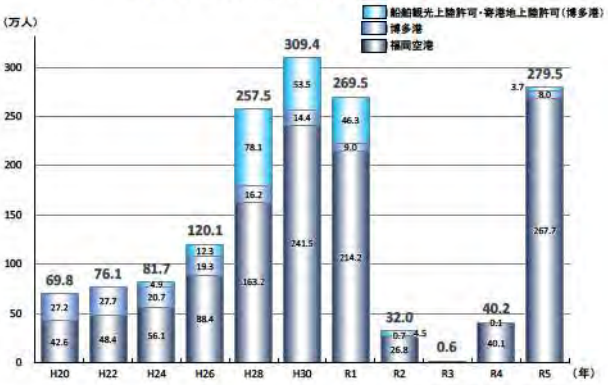
令和5年度は、福岡空港の旅客数が新型コロナウイルス感染症拡大前を超えるなど、徐々に交流人口が回復しています。

【入込観光客数の推移】



資料：福岡市観光統計

【外国人入国者数の推移】

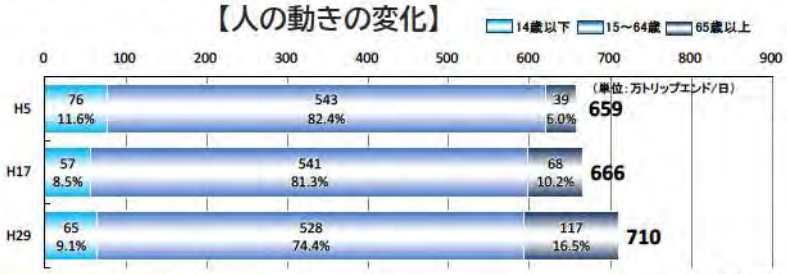


資料：福岡市経済の概況

■ 人の動き

トリップ数全体が増加する中、年々、高齢者（65歳以上）の動きが増加しています。

【人の動きの変化】



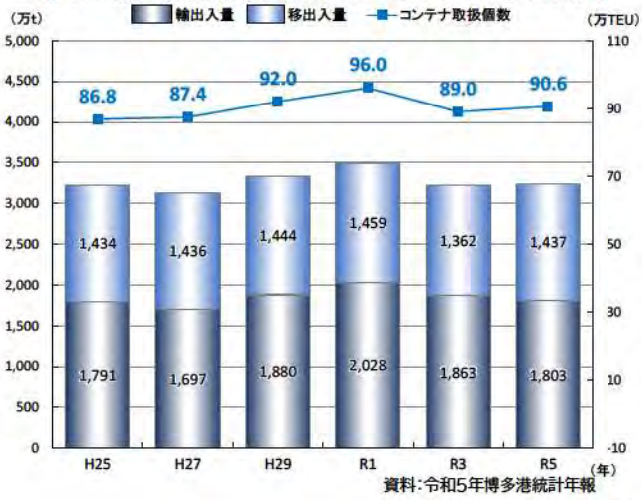
資料：北部九州圏パーソントリップ調査

物流

■ 貨物量・コンテナ量

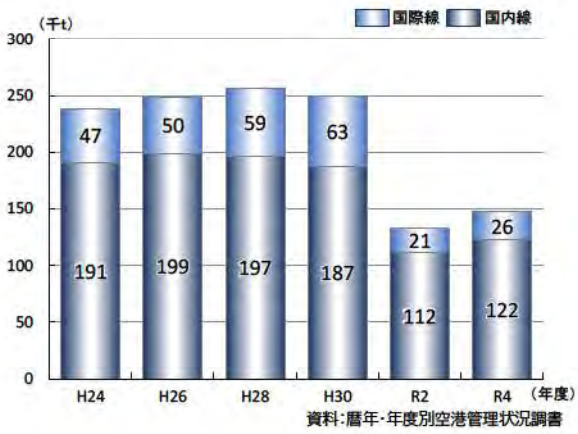
博多港における貨物量の取り扱いについては、ほぼ横ばいとなっており、福岡空港については、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度に大きく減少したものの、令和4年度は若干回復しています。

【海上輸出入貨物量・国際海上コンテナ量の推移】



資料：令和5年博多港統計年報

【福岡空港の貨物取扱量の推移】



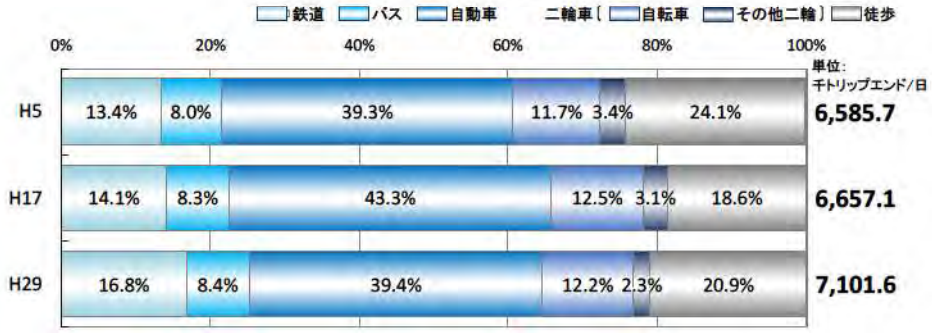
資料：暦年・年度別空港管理状況調書

自動車・自転車

自動車・自転車利用割合

トリップ数全体（人の動き）が増加する中、自転車利用の割合は、ほぼ横ばい、鉄道やバスの割合は増加、自動車利用の割合は減少しています。

【交通手段別の動きの変化】

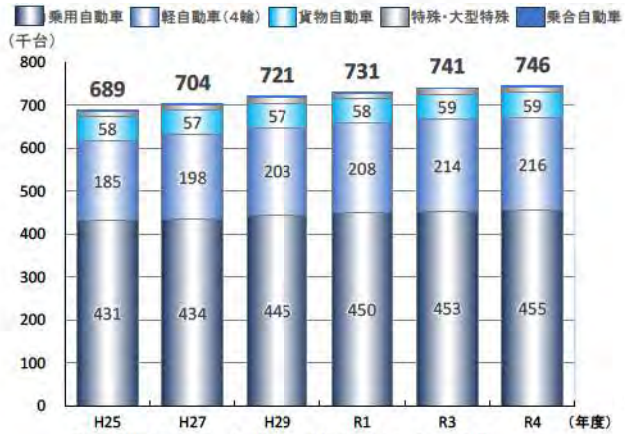


資料：北部九州圏パーソントリップ調査

自動車保有台数

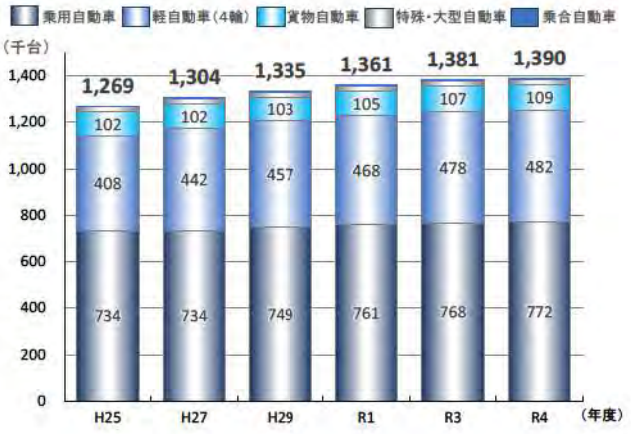
福岡市・都市圏ともに、自動車保有台数は年々増加しており、令和4年度末で約75万台（福岡市）、約140万台（都市圏）となっています。車種別に見ると、特に軽自動車が増加しています。

【自動車保有台数の推移（福岡市）】



資料：九州運輸局

【自動車保有台数の推移（都市圏）】



資料：九州運輸局

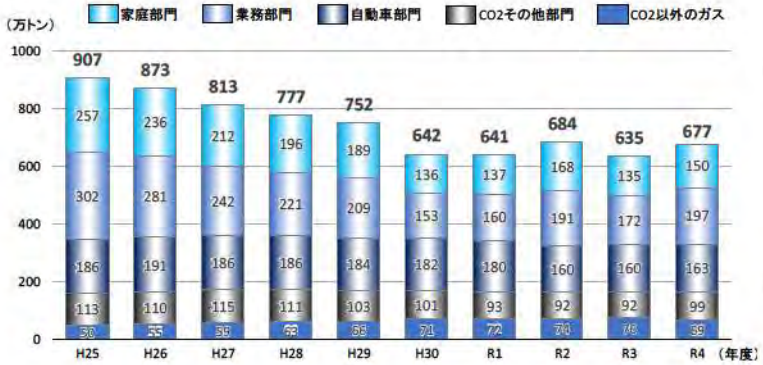
環境・気候

■ 二酸化炭素排出量

自動車部門の二酸化炭素排出量は、令和元年度まで横ばいで推移していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度以降減少しています。

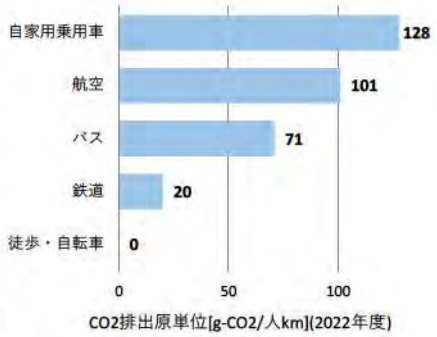
また、1人を1km運ぶのに排出される二酸化炭素の排出量は、自家用自動車が最も多くなっています。

【市内の温室効果ガス排出量の推移】



資料：福岡市環境局

【1人を1km運ぶのに排出される二酸化炭素の排出量】



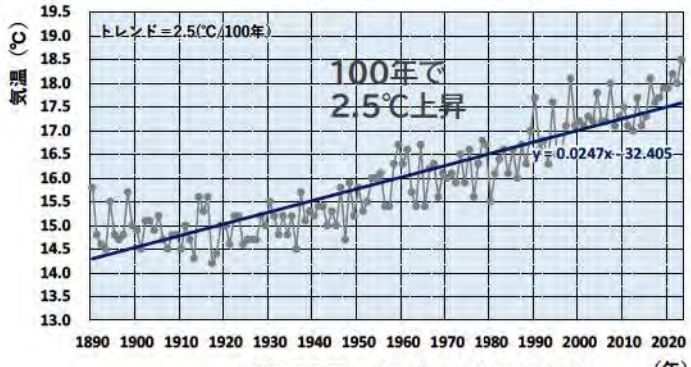
資料：国土交通省

■ 気候

平均気温は増加傾向となっており、直近100年辺り2.5℃上昇しています。

気温上昇の影響により大雨も増加しており、短時間強雨（50mm以上/1h）の回数は直近45年間で約2.3倍になっています。

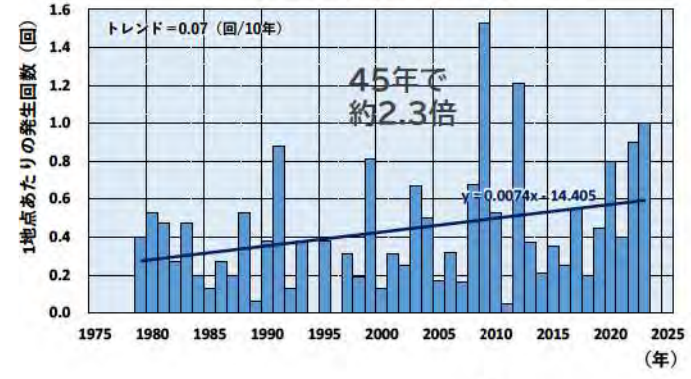
【福岡県の平均気温】



黒線：年平均気温
青線：この期間の長期変化傾向

資料：気象庁

【福岡県の短時間強雨回数】



棒：各年の1時間降水量50㎜以上の回数
青線：この期間の長期変化傾向

資料：気象庁

新たなモビリティ

新たなモビリティサービス

交通機関の利用拠点や人々の交流の場として期待されるモビリティハブや自動運転など、技術革新等を背景として新たなモビリティサービスに対する動きが活発になってきています。

資料:国土交通省
道路政策ビジョン2040

資料:国土交通省
WISENET2050・政策集

資料:政府広報オンライン

交通事故

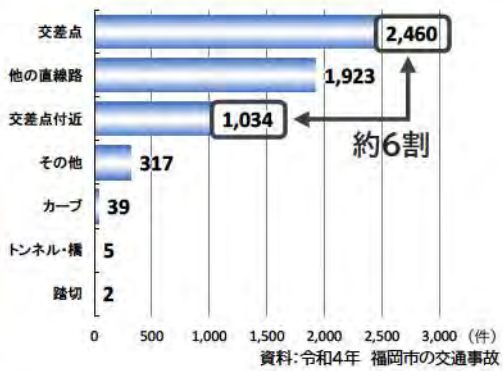
交通事故発生件数

市内の交通事故件数及び死者数は減少傾向となっています。
また、令和4年における交通事故のうち、交差点や交差点付近での事故件数が約6割となっています。

【交通事故発生件数と死者数の推移】

資料:令和4年 福岡市の交通事故

【道路形状別交通事故発生件数】



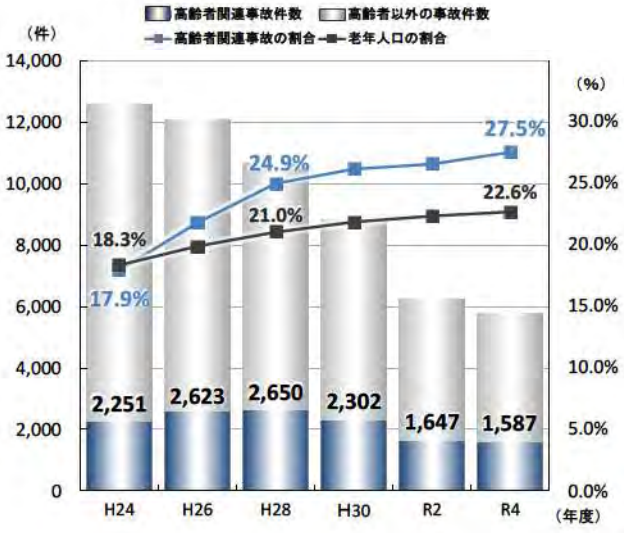
資料:令和4年 福岡市の交通事故

■ 年代別の交通事故割合、道路形状別交通事故発生件数

高齢者（65歳以上）関連事故の割合は、増加傾向となっており、年少者（15歳未満）関連事故割合は、横ばいで推移しています。

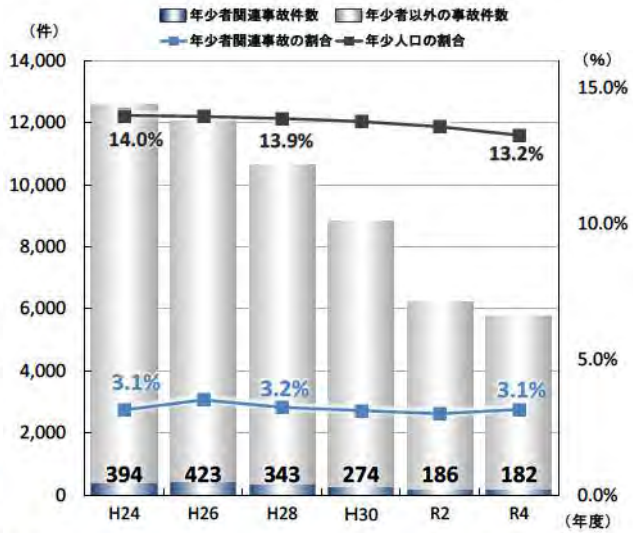
【高齢者・年少者関連の交通事故発生件数の推移】

【高齢者】



資料：福岡市市民局
資料：福岡市統計書

【年少者】

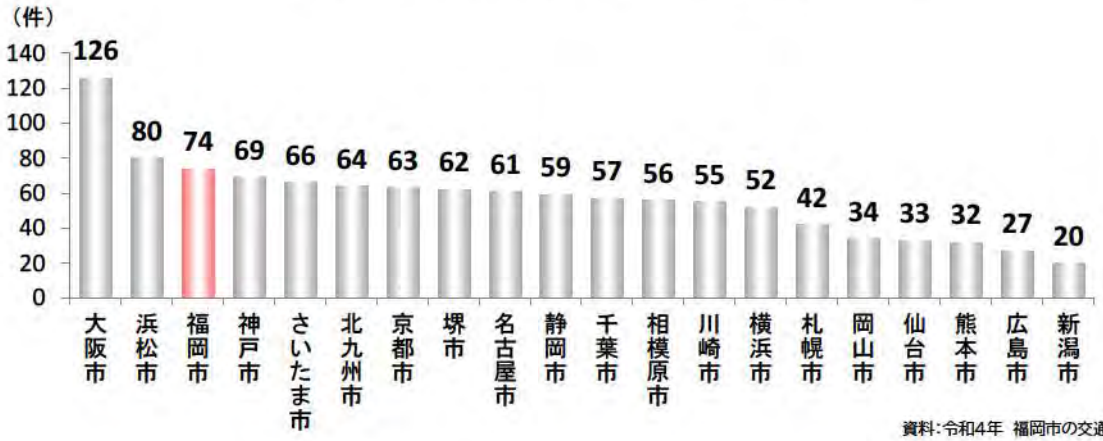


資料：福岡市市民局
資料：福岡市統計書

■ 自動車1万台あたりの交通事故件数

福岡市の自動車1万台あたりの事故発生件数は、大阪市や浜松市に次いで、ワースト3位となっています。

【自動車1万台あたりの交通事故件数（R4年政令市比較）】



資料：令和4年 福岡市の交通事故

防災

自然災害への備え

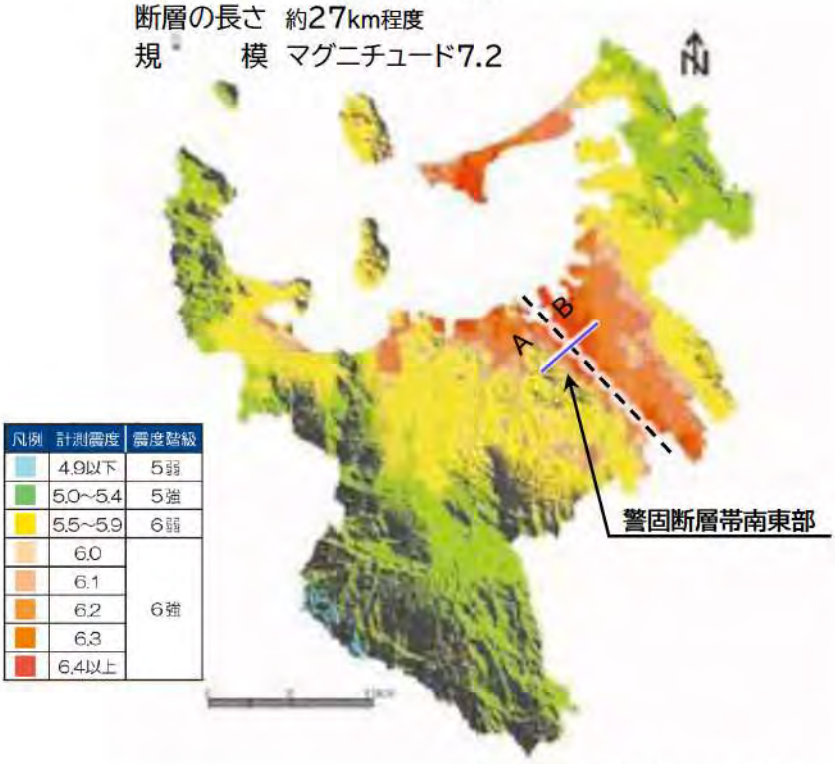
福岡市では、平成17年3月に発生した福岡県西方沖地震により、法面の崩壊や舗装の隆起などの被害が発生しました。警固断層帯南東部では、今後30年以内に地震が発生する確率は0.3%～6%と言われており、国内の主な活断層の中では高くなっています。

令和6年1月に発生した能登半島地震では、土砂崩れや道路の陥没などによって多数の通行止めなどにより、救助や支援の手が届きにくい状況になるとともに、水道や下水道などの復旧に期間を要しています。

また、令和元年9月に発生した台風15号では、千葉市を中心に電柱約2,000本が倒壊、最大約93万件の停電が発生し、停電の解消に約2週間を要しました。

【警固断層帯南東部で地震が起きた場合】

断層の位置　警固断層帯南東部
断層の長さ　約27km程度
規　　模　マグニチュード7.2



資料：福岡市揺れやすさマップパンフレット

【令和6年　能登半島地震による道路崩落】

資料：石川県

【令和元年　台風15号による電柱倒壊】

資料：千葉県

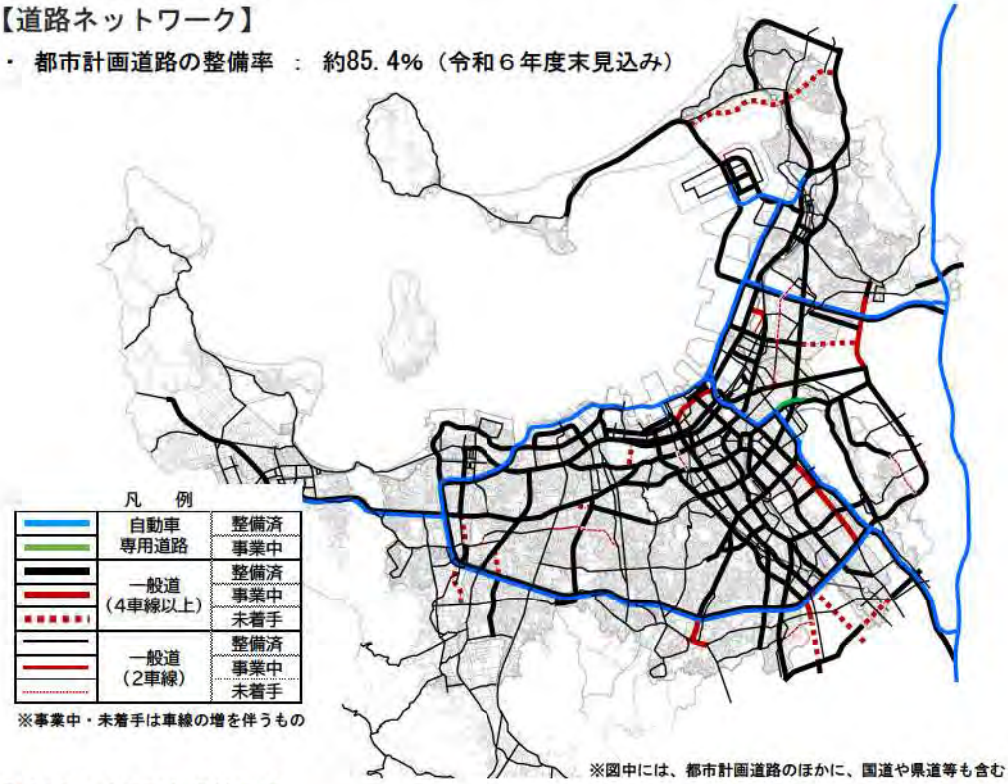
道路状況

■ 道路ネットワーク、地域の主要渋滞箇所

福岡外環状道路や都市高速道路をはじめとした、都市計画道路などの整備により、放射環状型の幹線道路ネットワークの形成が進んできたものの、市内の一部においては、依然として渋滞が発生しています。

【道路ネットワーク】

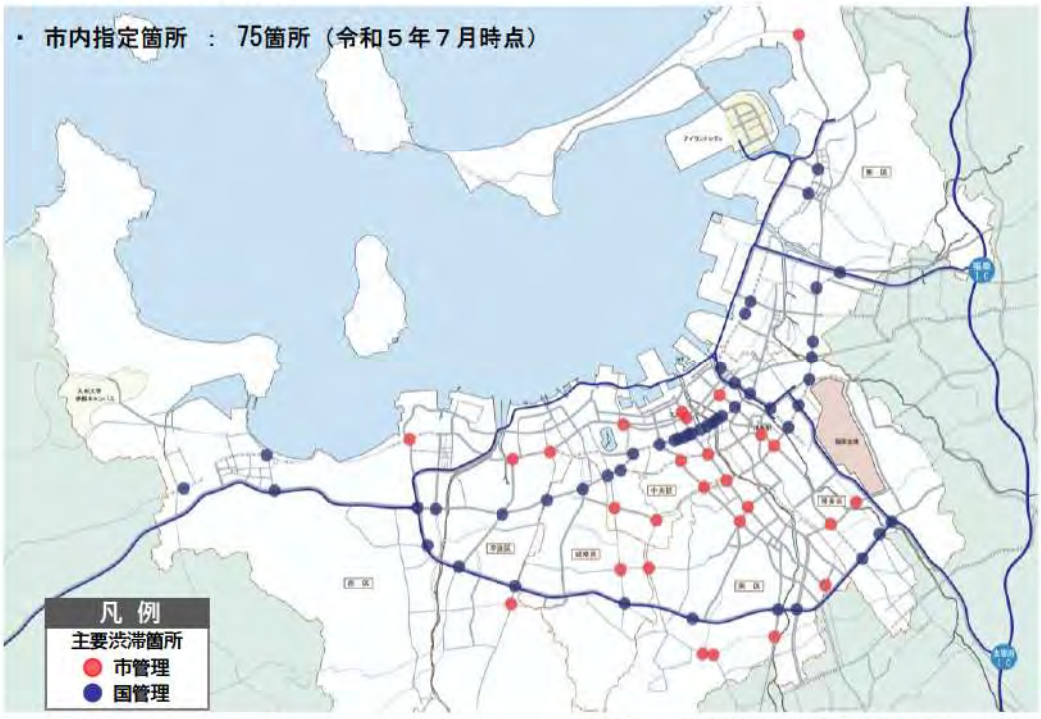
・ 都市計画道路の整備率 ： 約85. 4%（令和６年度末見込み）



※図中には、都市計画道路のほかに、国道や県道等も含む

【地域の主要渋滞箇所】

・ 市内指定箇所 ： 75箇所（令和５年７月時点）



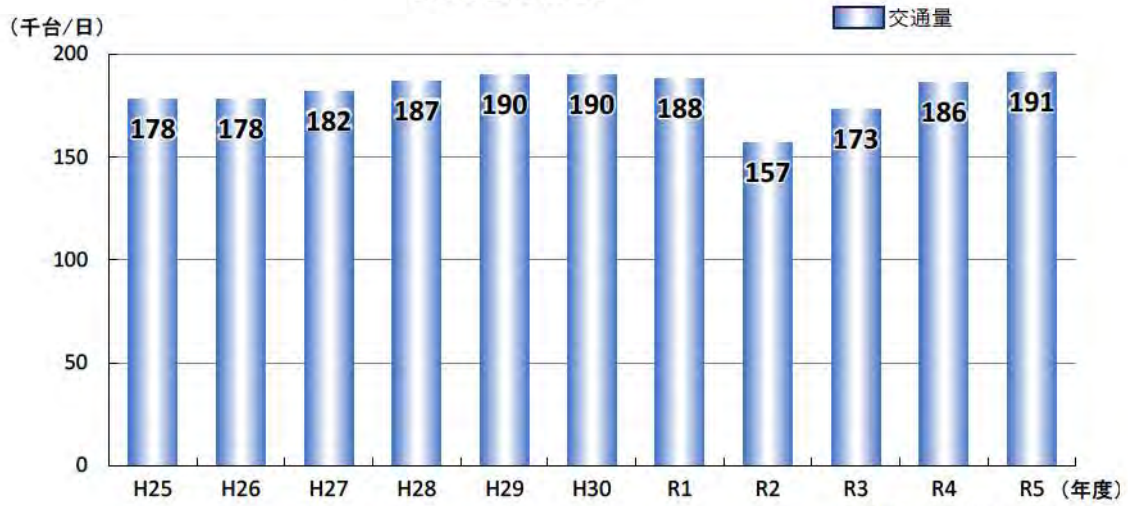
資料：福岡県交通渋滞対策協議会資料を基に福岡市作成

道路状況

■ 都市高速道路の交通状況

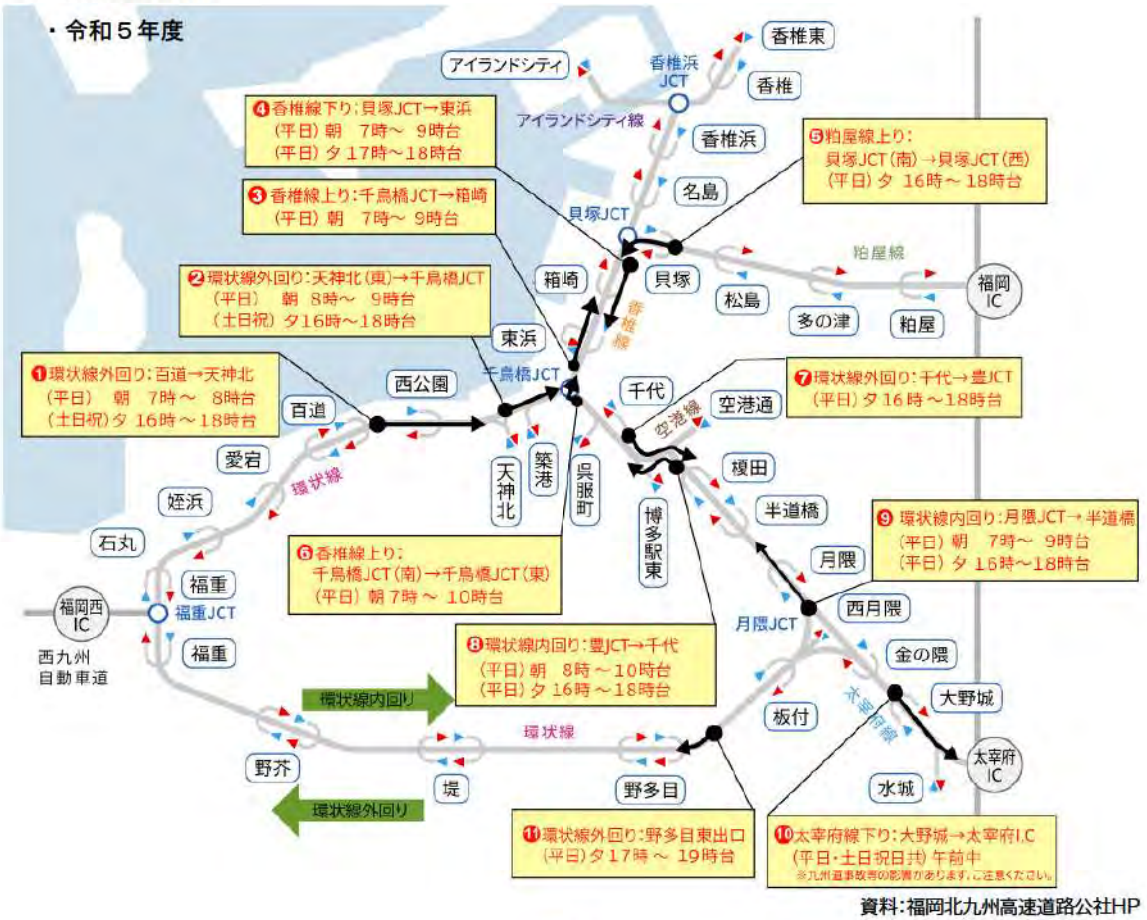
福岡都市高速道路の交通量は、これまで増加していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は大きく減少したものの、令和5年度は新型コロナウイルス感染症拡大前の水準まで回復しています。

【交通量の推移】



資料：福岡北九州高速道路公社

【主要渋滞箇所】



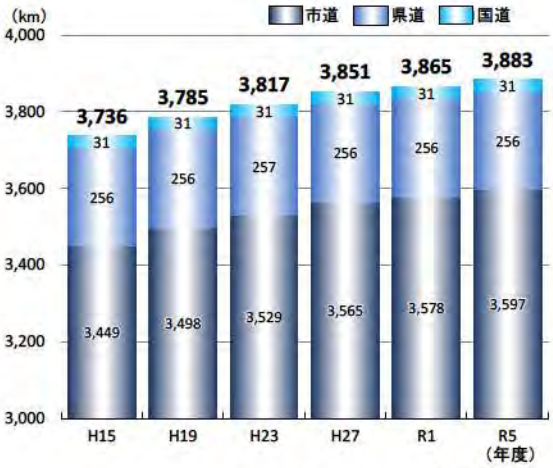
資料：福岡北九州高速道路公社HP

管理道路

■ 道路の管理延長・面積

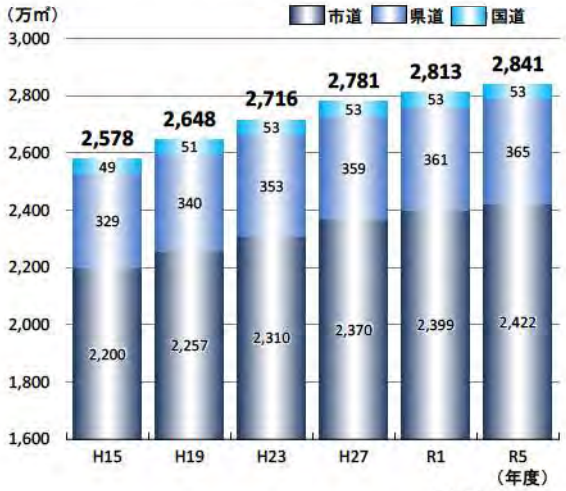
市が管理する道路の延長・面積は年々増加しており、約3,900km・約2,800万㎡に達しています。

【道路延長】



資料:議会要覧

【道路面積】



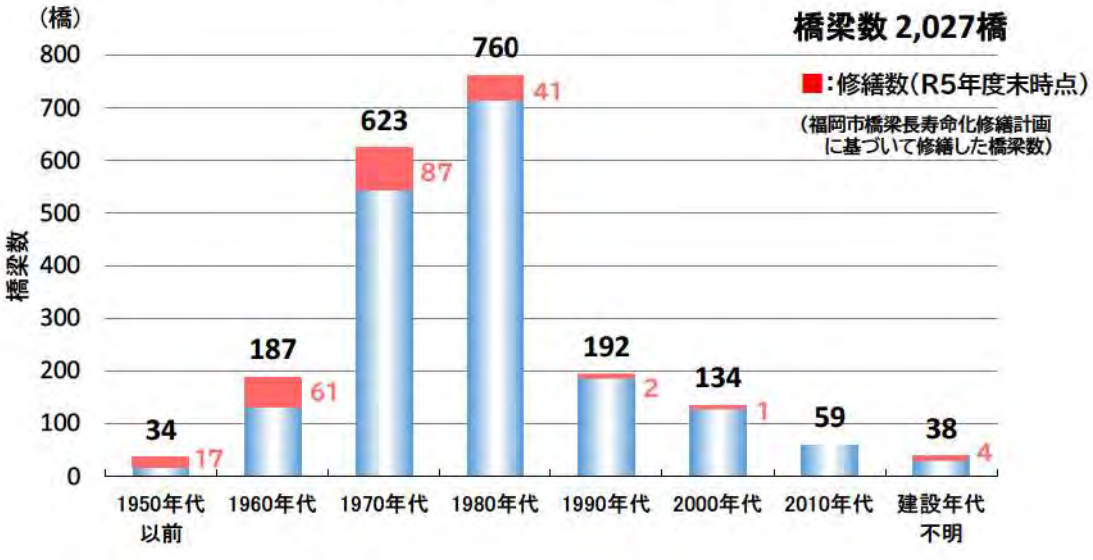
資料:議会要覧

施設の老朽化

■ 橋梁の老朽化

福岡市が管理する橋梁は、約2,000橋にのぼり、これらの橋梁は、1970年代から1980年代の高度経済成長期に建設されたものが多い状況となっています。

【建設年代別の橋梁数】



資料:福岡市

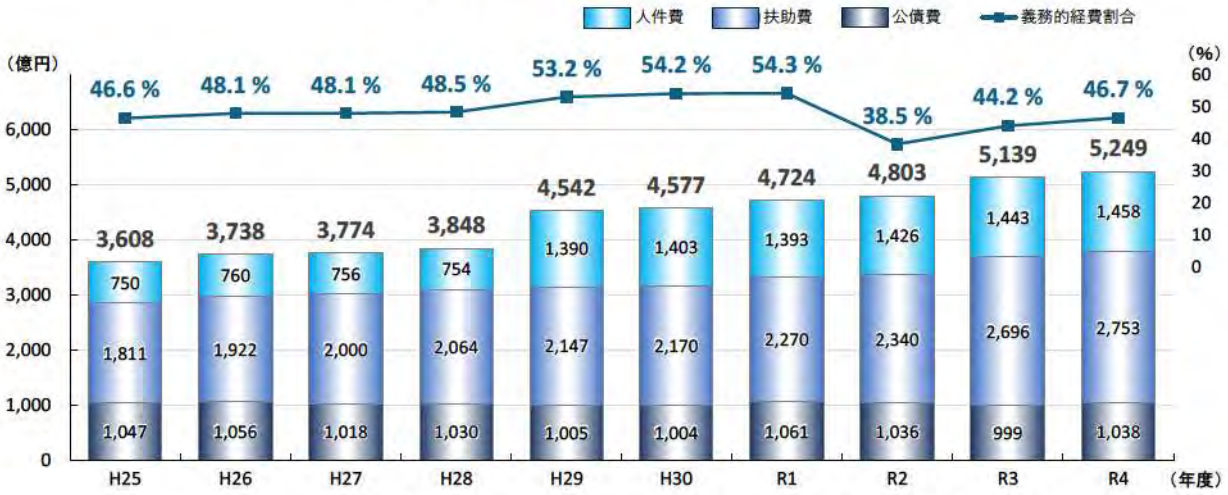
財政状況

■ 市予算、道路事業の予算

市全体の予算（一般会計）において、扶助費（生活保護費などの医療・福祉経費）などの義務的経費が増加傾向となっています。

道路事業に関する予算は、平成9年度をピークに減少が続いており、令和6年度はピーク時の約1/4程度になっています。

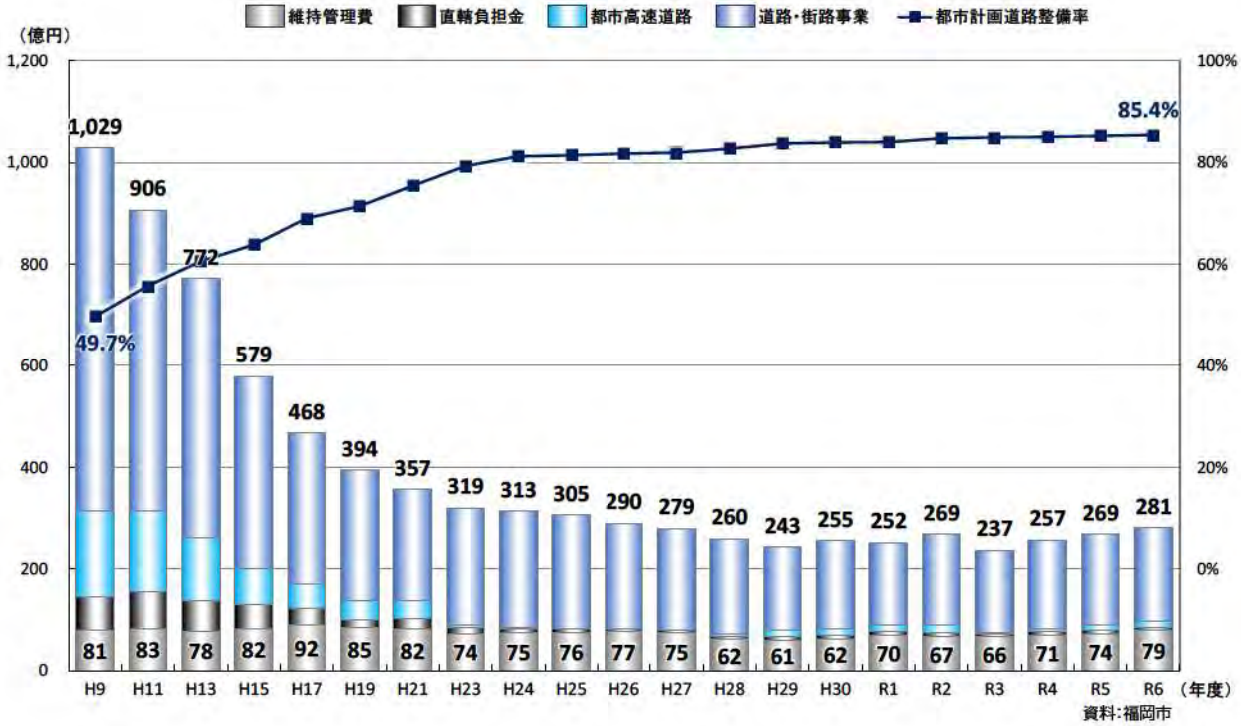
【市予算における義務的経費の割合】



※R2以降、新型コロナウイルス感染症の影響等により臨時的経費が大幅に増加したため、義務的経費割合が減少している。

資料：財政のあらまし

【道路事業に関する当初予算（一般会計）と都市計画道路整備率の推移】



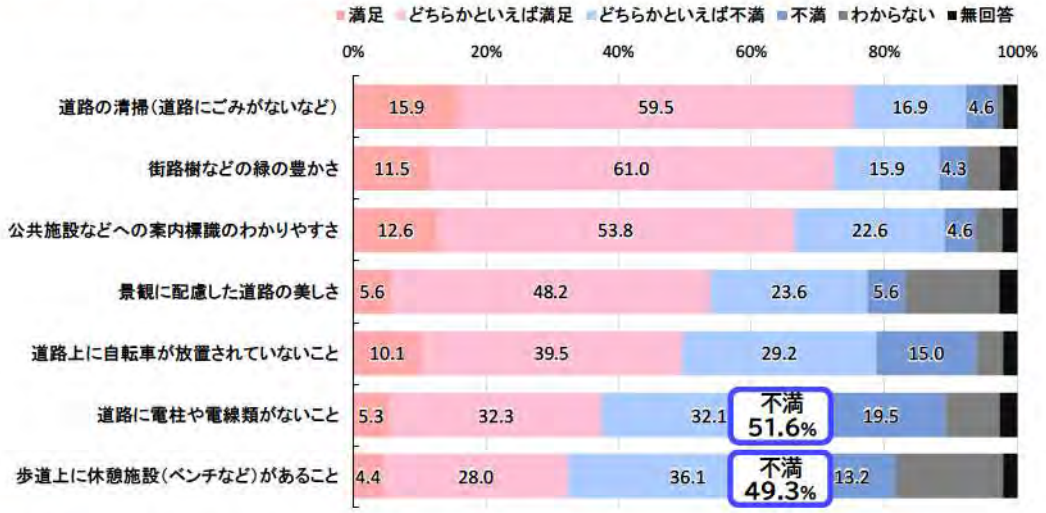
資料：福岡市

3. 道路整備に関する意見

道路整備に関する市民ニーズを把握するため、令和4年7～8月にアンケートを実施し、『道路の快適性や利便性』、『力をいれていくべき道路事業』などの満足度・重要度を回答していただきました。

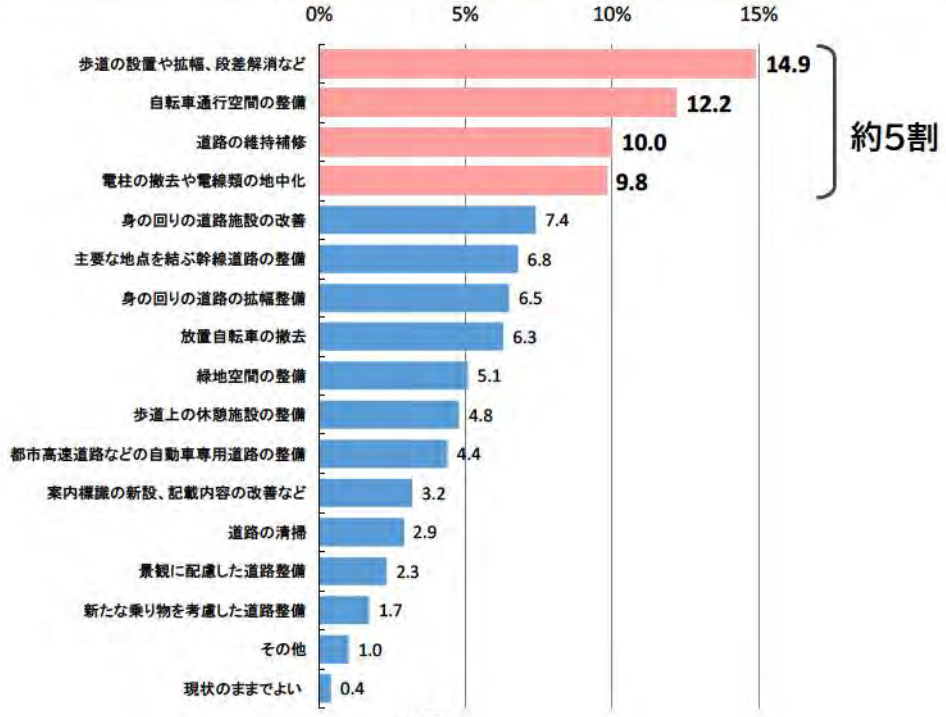
■『道路の快適性や利便性』における満足度

「道路の清掃」、「街路樹などの緑の豊かさ」への満足度は高いが、「道路に電柱や電線類があること」、「歩道上に休憩施設がないこと」への不満が高くなっており、**無電柱化の推進やベンチなどの休憩施設の設置が求められています。**



■『力を入れていくべき道路事業』

「歩道の整備（歩道の設置や拡幅、段差解消など）」、「自転車通行空間の整備」、「道路の維持補修」、「電柱の撤去や電線類の地中化」に関する要望が全体の約5割を占めています。



■ 福岡市道路整備懇談会での主な意見

学識経験者や道路利用者等、様々な分野で活躍されている方で構成する「福岡市道路整備懇談会」において、今後の道路整備のあり方について次のような意見が出されました。

【開催状況】

第１回：令和6年　8月　8日

第２回：令和6年 10月 24日

【主な意見】

ビジョン1　ユニバーサル都市・福岡を実現する道づくり

●ユニバーサルデザインに基づく整備が進めば、外出意欲が高まる
●高齢者は、認知機能や判断力が低下するため、分かりやすい案内サインが必要
●小学校付近以外も歩車分離を行うことで、子どもの事故を減少させることが必要
●公共交通の利便性向上など、総合交通体系の構築を支える道路整備が重要

ビジョン2：都市の魅力に磨きをかける道づくり

●幹線道路の整備に加えて、今あるものを有効活用しながら、局所的な渋滞対策を進めることが必要
●まちづくりとの連携や拠点を繋ぐ道路によって、スムーズに移動できることが都市の活力を高める上で重要
●道路景観は、利用者が快適で楽しそうにしてることが重要であり、舗装などの色彩にも配慮が必要
●国の新たな取り組みを採用するなど、道路を活用し、魅力を高めることも必要

ビジョン3：市民のくらしを守る道づくり

●自然災害への備えに加えて、被害が生じた場合の早期復旧や交通マネジメントなどの対応も必要
●橋梁や道路施設の長寿命化など、適切な維持管理が重要
●脱炭素社会の実現に向けて、二酸化炭素排出量の少ない材料や温暖化に対応した舗装材などの検討が必要
●街路樹の整備により、夏の暑さを和らげ、憩いや潤いを与えることで都市景観も向上する
●沿道の方が道路に愛着を持ち、自発的に清掃を行うなどの取り組みを促す活動が重要

令和6年10月時点

氏 名	所属・役職等
伊賀上　恵子	公益財団法人福岡観光コンベンションビューロー 事務局長
入江　晋	公益社団法人福岡市老人クラブ連合会　常務理事
甲斐　絵里	福岡市道路利用者会議　理事
榊　淳英	福岡市PTA協議会 副会長
柴田　久	福岡大学工学部社会デザイン工学科 教授
清水　邦之	NPO法人福岡市障害者関係団体協議会　理事長
萩島　理	九州大学　総合理工学研究院　教授・副理事
◎ 松永　千晶	福岡女子大学国際文理学部環境科学科 准教授
村上　哲	福岡大学工学部社会デザイン工学科 教授

※行政アドバイザーとして国土交通省と福岡市から各1名参加
※氏名に◎の委員が座長

■ みんなでつくる将来計画プロジェクトにおけるワークショップ

令和5年度に総務企画局が実施した「みんなでつくる福岡市の将来計画プロジェクト」において、「福岡市の道路整備」に関するワークショップを4回開催しました。

	福岡大学　工学部 社会デザイン工学科	福岡大学　工学部 社会デザイン工学科	九州大学 経済学部	福岡工業高校
開催日	令和5年10月16日	R5年11月16日	R5年11月17日	R5年10月25日
相手方	防災・環境地盤工学 研究室　11名	景観まちづくり 研究室　11名	経済学部 5名	都市工学科 14名

【主な意見】

「安全・安心」

●暗い所を照らしたり、イルミネーションなどで雰囲気良くすることで、明るい福岡市になる
●安全・安心に道路を利用できているが、安全施設の整備に加えて、道路を利用する人々のモラル・マナーの向上が重要

「魅力・憩い・賑わい」

●観光客や緑化範囲を増やすため、「魅力・憩い・賑わい」を伸ばし、経済や環境の好循環を創出することが重要
●福岡市に集まる若い世代が魅力を感じる、「魅力・憩い・賑わい」を更に伸ばすべき

「経済・物流・防災・環境」

●経済効果の高い対策を実施し、確保した財源を活用して安全安心や魅力・賑わいに資する対策を推進することが重要
●経済発展のため物流拠点を中心とした道路ネットワークの強化などによる渋滞解消
●防災対策として、無電柱化を推進することが重要
●環境対策として、街路樹を整備することが重要

■ みんなでつくる将来計画プロジェクトにおけるオンラインアンケート

「みんなでつくる福岡市の将来計画プロジェクト」において、個人から寄せられた意見（述べ3，315件）のうち道路整備に関連する主な意見は次のとおりです。

ビジョン1　ユニバーサル都市・福岡を実現する道づくり

●歩道の段差をなくし、自転車やベビーカー、車椅子でも安心に
●子どもでも老人でも安心して安全に歩ける道路整備
●自転車で移動しやすい道路整備

ビジョン2：都市の魅力に磨きをかける道づくり

●市内中心部への交通流入の減少に向けた対策
●歩くのが楽しいまち

ビジョン3：市民のくらしを守る道づくり

●電信柱のないまちづくり
●再生可能エネルギーやEVの推進

4.「福岡市道路整備アクションプラン2024」について

■道路整備の基本的な考え方と主要施策

「福岡市道路整備アクションプラン2024」で掲げていた道路整備の基本的な考え方、及び主要施策は次のとおりです。

道路整備の基本的な考え方	主要施策
ビジョン1：ユニバーサル都市・福岡を実現する道づくり	
1. 人に優しい道づくり	1-1 道路のバリアフリー化 1-2 誰もが安心して歩ける歩行空間の整備や通学路の安全対策 1-3 効率的・効果的な交通安全対策
2. 公共交通を活かす道づくり	2-1 総合交通体系の構築を支える道路整備 2-2 バス利用環境の改善
3. 自転車と共生する道づくり	3-1 自転車通行空間のネットワーク強化 3-2 放置自転車対策 3-3 使い易い駐輪場の確保にあわせた路上駐輪場の段階的な廃止
ビジョン2：都市の魅力に磨きをかける道づくり	
4. 経済活動を支える道づくり	4-1 自動車専用道路の整備 4-2 幹線道路の整備 4-3 ボトルネック箇所の改善 4-4 連続立体交差事業の推進
5. まちづくりや多様な モビリティに対応した道づくり	5-1 拠点のまちづくりと連携した道路空間の整備 5-2 民間ビル等の建替えと一体となった道路空間の整備・活用・維持管理 5-3 駐車施策の推進 5-4 多様なモビリティに対応した道路空間の検討
6. FUKUOKAを楽しむ道づくり	6-1 誰もが歩きたくなる歩行空間の整備・活用 6-2 景観と調和した道路空間の整備 6-3 わかりやすい道案内への取り組み
ビジョン3：市民のくらしを守る道づくり	
7. 災害に強い道づくり	7-1 緊急輸送道路の整備 7-2 無電柱化の推進 7-3 狭あい道路拡幅整備の推進
8. 環境に配慮した道づくり	8-1 道路照明灯のLED化 8-2 排水性舗装・透水性舗装の整備 8-3 道路緑化
9. 次世代に繋ぐ道づくり	9-1 道路施設・橋梁の計画的補修による長寿命化 9-2 道路の効率的・戦略的な維持管理
10. みんなで守り育む道づくり	10-1 防犯灯のLED化の促進 10-2 市民等との共働による道路環境の保全 10-3 道路利用の適正化 10-4 市民等による道路の見守り 10-5 わかりやすい広報・広聴活動

5. 成果指標の達成状況

■成果指標の達成状況

「福岡市道路整備アクションプラン2024」で掲げていた成果指標の達成状況は次のとおりです。

ビジョン１：ユニバーサル都市・福岡を実現する道づくり

成果指標	R2末策定時	R6末目標	R6末見込
生活関連経路のバリアフリー化された割合 バリアフリー化された延長÷生活関連経路全延長(直轄道路、臨港道路等除く)	91% (35.9km/39.2km)	99% (39.0km/39.2km)	95.9% (37.6km/39.2km)
小学校周辺の歩車分離率 通学路を含む小学校から半径250mの道路のうち、歩車分離された延長÷全延長	73% (258.4km/349.6km)	82% (288.8km/349.6km)	82.9% (289.6km/349.6km)
自転車通行空間の整備延長 車道及び歩道における自転車通行空間の整備延長	122km	160km	154.5km

ビジョン２：都市の魅力に磨きをかける道づくり

成果指標	R2末策定時	R6末目標	R6末見込
都市計画道路の整備率 都市計画道路の整備延長÷計画延長	84.7% (428.6km/505.8km)	86.1% (435.4km/505.8km)	85.4% (431.8km/505.8km)
都心部を回遊する歩行者量 天神と博多を結ぶ７つの橋の断面歩行者量の合計(7:00～20:00) (西大橋・福博であい橋・中洲懸橋・春吉橋・灘の川橋・住吉橋・柳橋)	41,310人	46,000人	調査中

ビジョン３：市民のくらしを守る道づくり

成果指標	R2末策定時	R6末目標	R6末見込
無電柱化推進計画に基づく無電柱化整備延長 無電柱化推進計画に基づき、整備した延長	150km	168km	165.4km
橋梁の長寿命化修繕計画に基づく橋梁修繕数 修繕計画に基づき、修繕した橋梁数	175橋	234橋	228橋
道路照明灯のＬＥＤ化率 LED照明灯数÷市管理の照明灯数	86% (32,845基/38,033基)	95% (36,151基/38,033基)	91.6% (34,822基/38,033基)
地域が設置する防犯灯のＬＥＤ化率 LED防犯灯数÷地域の防犯灯数	89% (39,125基/44,193基)	100%	95.1% (42,034基/44,193基)
市民等との共働による道路の保全活動団体数 道路サポーター制度の登録団体数	12団体	25団体	25団体

6. これまでの4年間における主な取り組み

ビジョン１：ユニバーサル都市・福岡を実現する道づくり

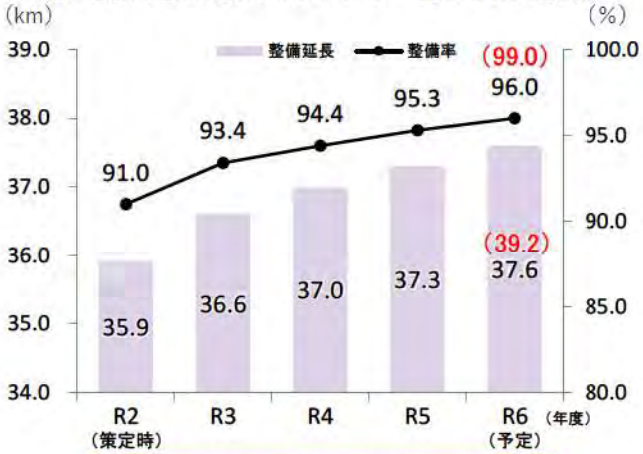
■道路のバリアフリー化

すべての人々が社会参加に向けて安全で快適に移動できるよう、ユニバーサルデザインに基づいた道路整備を進めています。特に、「バリアフリー基本計画」に定める重点整備地区内の生活関連経路については、優先的にバリアフリー化に取り組みました。

また、高齢者や障がい者をはじめ、誰もが安心して移動できる社会を目指し、『ベンチプロジェクト』の一環として、これまでに設置済みのバス停に加え、新たに約340か所のバス停にベンチを設置しました。

さらに、Fitness Cityプロジェクトとして、自然と楽しく体を動かしたくなる仕組みや仕掛けづくりに取り組みました。

【生活関連経路のバリアフリー化された割合】



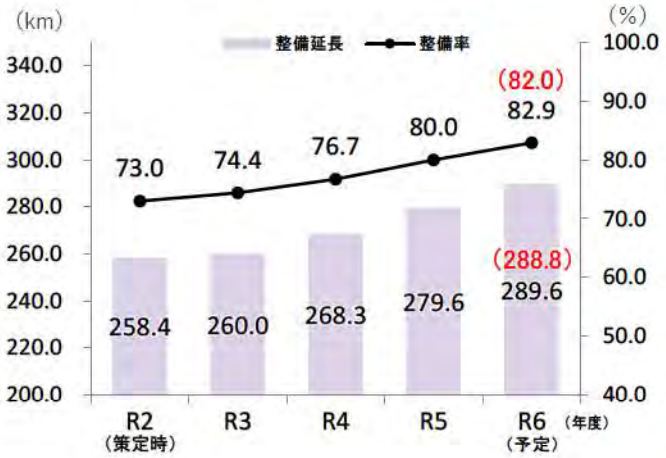
ビジョン1：ユニバーサル都市・福岡を実現する道づくり

■誰もが安心して歩ける歩行空間の整備や通学路の安全確保

児童や未就学児など、誰もが安心して歩けるよう歩行空間の整備を進めています。特に、地域住民の健康づくりやコミュニティづくりの場として活用されている小学校周辺の道路については、優先的に取り組みました。

また、「福岡市通学路交通安全対策プログラム」に基づき、学校、保護者、地域、各関係機関と連携・協力し、通学路の安全対策に取り組みました。

【小学校周辺の歩車分離率】



整備事例(浦田1211号線)

整備事例(千代今宿線)

■効率的・効果的な交通安全対策

市民に身近な道路の安全性を高めるために、路面標示や区画線、防護柵の設置、外側線などによる狭さくやクランクなどによって通過交通の抑制を図るなど、交通安全対策に取り組みました。

また、車両走行情報のビッグデータを活用し、速度超過や急ブレーキ箇所を見える化することで、潜在的な危険箇所を特定し、より効率的・効果的な交通安全対策に取り組み、これまで4地区でゾーン30プラスの設定を行っています。

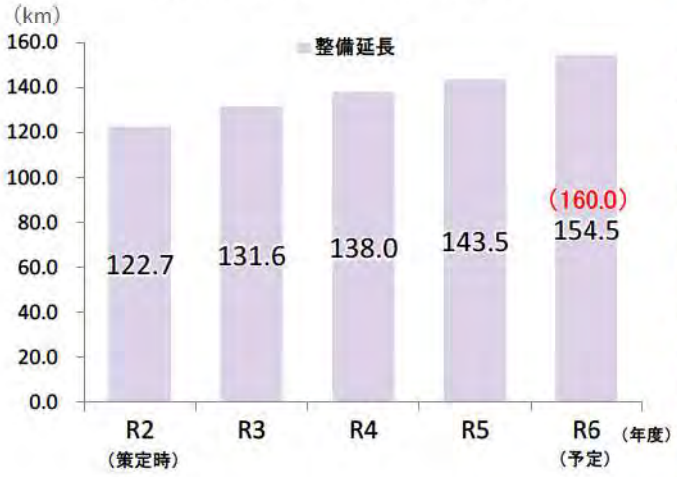
整備事例(香陵校区)

ビジョン1：ユニバーサル都市・福岡を実現する道づくり

■自転車通行空間ネットワーク強化

歩行者の安全を確保しながら、自転車、自動車など、誰もが安全で快適に移動できるよう、「福岡市自転車活用推進計画」に基づき、自転車通行空間の整備に取り組みました。

【自転車通行空間の整備延長】



■放置自転車対策(駐輪場の確保、モラル・マナーの啓発、放置自転車の撤去)

歩行者や車いすなどの安全な通行の確保や、都市景観の向上を図るため、「駐輪場の確保」「モラル・マナーの啓発」、「放置自転車の撤去」に取り組みました。

■使いやすい駐輪場の確保にあわせた路上駐輪場の段階的な廃止

ICTを活用した駐輪混雑情報の提供やキャッシュレス化への対応など、使いやすい駐輪場の整備を行うとともに、民間の附置義務駐輪場についても、利便性の確保を促しました。

また、公共や民間の駐輪場確保(施設型)にあわせて、暫定で整備している路上駐輪場を段階的に廃止し、ゆとりある歩行空間の確保を行いました。

ビジョン２：都市の魅力に磨きをかける道づくり

■自動車専用道路の整備

本市南部地域や太宰府方面から福岡空港へのアクセス強化や空港周辺道路の渋滞緩和を図るため、福岡高速3号線の延伸事業に取り組んでいます。

空港口交差点　交差イメージ図

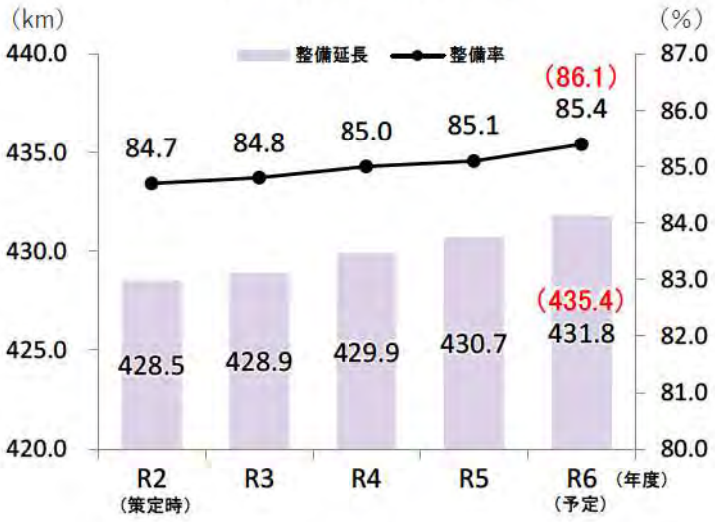
整備イメージ図

■幹線道路の整備

市域内の拠点間の連携強化や、周辺市町との広域交流・連携のため、交通の円滑化を図るとともに、生活道路や通学路に流入する通過交通の排除を図るため、幹線道路の整備に取り組みました。

整備事例（博多箱崎線）

【都市計画道路の整備率】



ビジョン２：都市の魅力に磨きをかける道づくり

■連続立体交差事業の推進

交通の円滑化と良好な住環境を形成するため、西鉄天神大牟田線連続立体交差事業による鉄道高架化に取り組みました。令和4年8月に高架切替、令和4年9月に筑紫通り供用、令和6年3月には桜並木駅を開業しており、残る、側道整備を進めています。

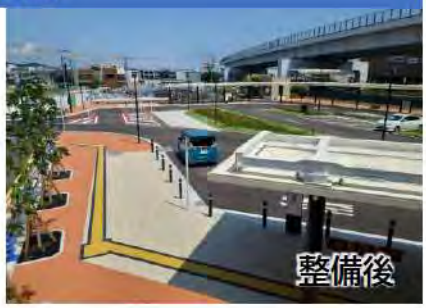
整備状況

桜並木駅（令和6年3月開業）

■拠点のまちづくりと連携した道路空間の整備

都心部や都市の成長を推進する活力創造拠点、市民生活の核となる広域拠点や地域拠点などにおいて、拠点の特性に応じたまちづくりを進めるため、拠点の魅力の向上や交通円滑化などに向けて、まちづくりと連携した道路空間の整備に取り組みました。

整備事例（橋本駅前広場）



■民間ビル等の建替えと一体となった道路空間の整備・活用・維持管理

民間ビル等の建替えの機会を捉え、沿道の民間事業者等と連携し、天神地区における交通混雑の緩和やバスの定時性確保などを図るため、沿線のまちづくりと一体となって天神通線の整備を進めています。

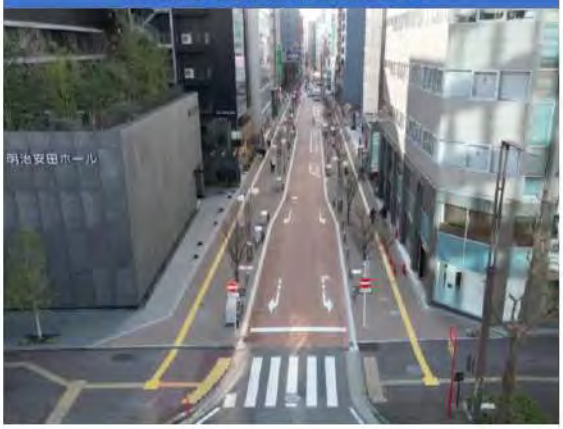
整備イメージ（北側）

ビジョン２：都市の魅力に磨きをかける道づくり

■誰もが歩きたくなる歩行空間の整備・活用

都心部における回遊機能の強化や地域の賑わい・交流の場の創出、道路空間の質の向上を図るため、賑わいや憩いを感じる歩行空間の整備を進めるとともに、「ほこみち制度（歩行者利便増進道路）」などによる道路空間の利用・活用にも取り組みました。

整備事例（中洲中央通り）



道路を活用したイベントの状況（天神）

主催：We Love 天神協議会

■景観と調和した道路空間の整備

美しく良好な都市環境を創造し、観光振興や地域活性化などを図るため、地域と行政が一体となって、地域の個性を活かした道路空間の景観形成に取り組みました。

整備イメージ（志賀島）

整備事例（北崎）

整備事例（西中洲）

整備事例（旧市街）

ビジョン３：市民のくらしを守る道づくり

■緊急輸送道路の整備

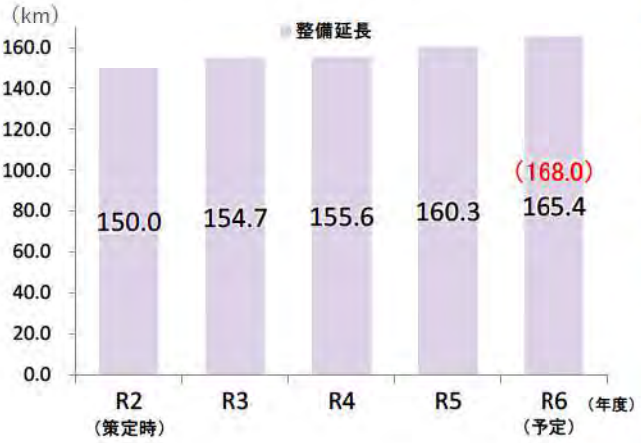
地震や台風などの災害時において、円滑な人命救助や物資輸送路の確保を目的として、緊急輸送道路の整備（拡幅、橋梁の耐震補強など）に取り組みました。

整備事例（興徳寺橋）

■無電柱化の推進

地震や台風などの災害時に、電柱倒壊による道路遮断の防止や、電力・通信網の切断被害の軽減などを図るため、「福岡市無電柱化推進計画」に基づき、無電柱化の整備を進めるとともに、「無電柱化推進プロジェクトチーム」において、低コスト手法の検討などに取り組みました。

【無電柱化整備延長】



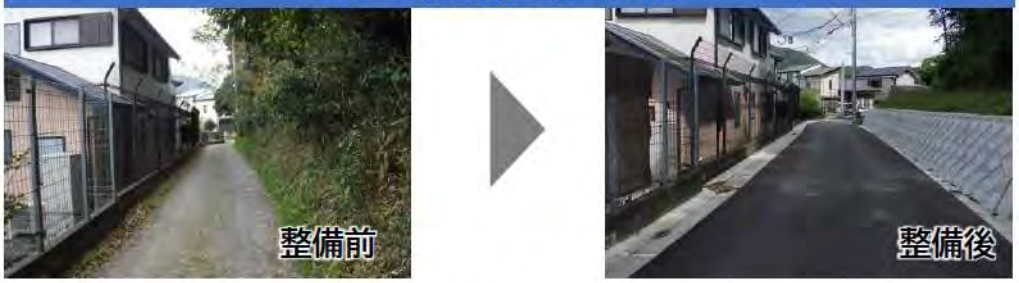
整備事例（大原周船寺停車場線）

無電柱化推進プロジェクトチーム

■狭あい道路拡幅整備の推進

生活道路において、交通安全や防災上支障となっている幅員4.0m未満の狭あい道路を解消するため、必要な用地については寄付を受けながら、道路の拡幅整備に取り組みました。

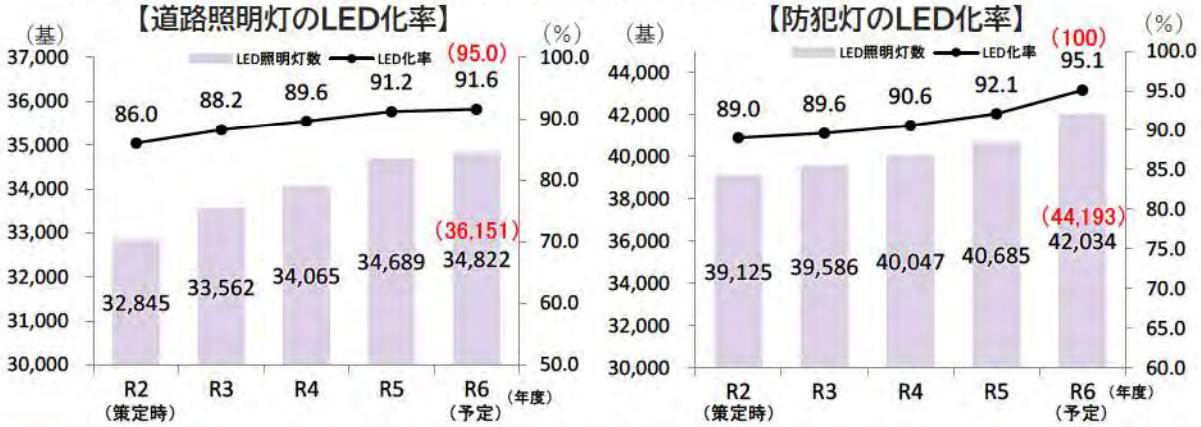
整備事例（高美台4170号線）



ビジョン３：市民のくらしを守る道づくり

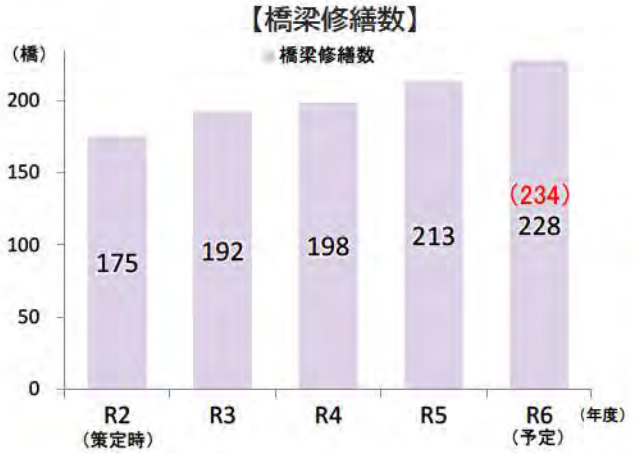
■道路照明灯・防犯灯のLED化

電力使用量やそれに伴う二酸化炭素排出量の削減、電球の長寿命化による維持管理費の削減などを図るため、道路照明灯・防犯灯のLED化に取り組みました。



■道路施設・橋梁の計画的補修による長寿命化

老朽化する道路施設・橋梁の長寿命化と財政負担の低減・平準化を図るため、「道路施設個別施設計画」や「橋梁長寿命化修繕計画」などに基づき、定期点検や予防保全などに取り組みました。



■道路の効率的・戦略的な維持管理

人や自動車が道路を安心して安全に利用できるよう、日常パトロールや路面下空洞調査などを実施し、破損箇所の早期補修や道路施設の改善、陥没の未然防止に取り組みました。 また、ドローンなどの新技術を活用した点検を行うなど、維持管理の効率化と高度化を図り、戦略的な維持管理に取り組みました。

7. これまでの4年間における成果と課題

■これまでの4年間（令和3年度～令和6年度）における取り組みの成果と課題

ビジョン１：ユニバーサル都市・福岡を実現する道づくり

1．人に優しい道づくり

成果	◆ 道路のバリアフリー化については、「バリアフリー基本計画」に定める重点整備地区内の生活関連経路を優先的に実施 ◆ 「ベンチプロジェクト」の一環として、バス停にベンチを約340箇所設置 ◆ FitnessCityプロジェクトとして、博多駅周辺において、自然と楽しく体を動かしたくなる仕組みや仕掛けづくりを推進 ◆ 歩車分離などの歩行空間の整備については、小学校周辺の道路を優先的に実施 ◆ 「福岡市通学路交通安全対策プログラム」に基づき、学校、保護者、地域、各関係機関と連携・協力し、通学路の安全対策を推進 ◆ 車両走行情報のビッグデータを活用した、効率的・効果的な交通安全対策として、4地区でゾーン30プラスを設定 ⇒ 生活関連経路のバリアフリー化された割合は、約5%進捗し、96.0%となる予定 ⇒ 小学校周辺の歩車分離率は、約10%進捗し、82.9%となる予定
課題	◆ 総人口に占める高齢者の割合が21%を超えて超高齢社会に突入しており、更に高齢化率が上昇し続ける見込みとなっている。 また、障がい者の人数や総人口に占める割合が増加していることから、 道路のバリアフリー化や高齢者や体の不自由な人が外出しやすく、自然と体を動かしたくなる道路整備が必要 ◆ 「福岡市交通安全計画」に掲げる、「交通事故のない社会」の実現に向けて、交通安全対策が必要 ◆ 歩道上にベンチなどの休憩施設を求める市民意見が多い ◆ 歩道の設置や拡幅、段差解消などの歩道整備を求める市民意見が多い

2．公共交通を活かす道づくり

成果	◆ マイカーから公共交通への利用転換を促し、道路交通混雑の緩和を図るため、博多駅筑紫口などの駅前広場の再整備やバス停への上屋（ベンチ）設置（20箇所）を推進
課題	◆ 鉄道やバスの利用割合が増加しているため、公共交通の利便性向上や利用環境の改善が必要

3．自転車と共生する道づくり

成果	◆ 自転車通行空間の整備や放置自転車対策（駐輪場の確保、モラル・マナーの啓発、放置自転車の撤去）、路上駐輪場の廃止を推進 ⇒ 自転車通行空間の整備延長は、約32km進捗し、154.5kmが完了予定
課題	◆ 自転車通行空間の整備を求める市民意見が多い ◆ 脱炭素社会の実現に向けて、二酸化炭素排出量の低減のため、環境にやさしい自転車活用の促進が必要

ビジョン２：都市の魅力に磨きをかける道づくり

4．経済活動を支える道づくり

成果	◆ 経済活動や物流・交流を支えるため、福岡高速3号線の延伸事業に着手・推進するとともに、都市計画道路などの幹線道路整備を推進 ◆ 西鉄天神大牟田線連続立体交差事業において鉄道高架化を実施 ⇒ 都市計画道路の整備率は、約0.7%進捗し、85.4%となる予定
課題	◆ 放射環状型の幹線道路ネットワークの形成が進んできたが、市内の一部においては、依然として渋滞が発生しており、 幹線道路の整備とともに、既存ストックを活用した拠点へのアクセス強化が必要

5．まちづくりや多様なモビリティに対応した道づくり

成果	◆ 拠点の魅力の向上や交通円滑化に向けて、九州大学箱崎キャンパス跡地や橋本駅周辺において、まちづくりと連携した道路空間の整備を推進 ◆ 沿線のまちづくりと一体となって天神通線（北側）の整備を推進	課題	◆ 都市の活力を高めるため、まちづくりと連携した道路整備が必要 ◆ 交通機関の利用拠点や人々の交流の場として期待されるモビリティハブや、自動運転など、新たなモビリティの普及に合わせた道路空間の検討が必要

6．ＦＵＫＵＯＫＡを楽しむ道づくり

成果	◆ 賑わいや憩いを感じる歩行空間の整備や、「ほこみち制度（歩行者利便増進道路）」などによる道路空間の利用・活用を推進 ◆ 地域と行政が一体となって、Fukuoka East＆West Coastプロジェクトや博多旧市街プロジェクトなど地域の個性を活かした道路空間の景観形成を推進 ⇒ 都心部を回遊する歩行者量（天神と博多を結ぶ7つの橋の断面歩行者量の合計）は、令和5年度末時点で42,565人	課題	◆ 市民や来街者が安心して楽しく回遊でき、集い・憩い・多様な活動が出来るよう、道路と沿道が一体となった道路空間の利用・活用が必要 ◆ 観光振興や地域活性化などを図るため、地域と行政が一体となった景観形成が必要

ビジョン３：市民のくらしを守る道づくり

7．災害に強い道づくり

成果	◆ 災害時においても必要な人・物・情報のネットワークを確保し、市民の安全・安心を保つため、興徳寺橋の架け替えや無電柱化の整備などを推進 ⇒ 無電柱化の整備延長は、約15km進捗し、165.4kmが完了予定	課題	◆ 地震や台風などの自然災害に伴う道路の通行止めや電柱の倒壊などへの備えが必要 ◆ 無電柱化の推進を求める市民意見が多い

8．環境に配慮した道づくり

成果	◆ 電力使用量や二酸化炭素排出量削減のため、道路照明灯のLED化などを推進 ⇒ 道路照明灯のLED化率は、約5%が進捗し、91.6%となる予定 ⇒ 地域が設置する防犯灯のLED化率は、約6%が進捗し、95.1%となる予定	課題	◆ 「福岡市地球温暖化対策実行計画」に掲げる「カーボンニュートラルを実装した都市」の実現に向けて、環境負荷低減に資する取り組みが必要

9．次世代に繋ぐ道づくり

成果	◆ 道路を安心して安全に利用できるよう、道路パトロール、定期点検や予防保全対策などを実施 ◆ ドローンなどの新技術を活用した橋梁点検を実施 ⇒ 橋梁修繕数は、53橋を対策し、228橋が完了予定	課題	◆ 管理する施設が増加する中、限られた予算で効率的・効果的に維持管理していくことが必要 ◆ 道路の維持補修を求める市民意見が多い

10．みんなで守り育む道づくり

成果	◆ 道路への関心と愛着を育むことや、地域住民や企業等との共働による安全・安心なまちを創るため、防犯灯設置への助成や市民等による道路環境の保全や見守りを実施 ⇒（再掲）地域が設置する防犯灯のLED化率は、約6%が進捗し、95.1%となる予定 ⇒ 市民等との共働による道路の保全活動団体数は、13団体が登録し、25団体となる予定	課題	◆ 市民の道路への関心と愛着を育み、市民等との共働による道路環境の保全が必要